

子どもたちの学び合いを大切にしたい授業を目指して

～児童に多様な考えを持たせ、学び合いを深めるために～

東広島市立三津小学校 胡 秀明

1 実践の趣旨

昨年、私は「子どもたちの学び合いを大切にしたい授業を目指して」というテーマで、国語科の授業に取り組んだ。

「サーカスのライオン」(東京書籍3年)の授業では、児童が自分の考えをしっかりと持ち、意見を交流しながら学び合いをすることができた。

しかし、学び合いをもっと深めるために、児童に多様な考えを持たせるという課題が残った。

そこで、本年度も「子どもたちの学び合いを大切にしたい授業を目指して」をテーマにし、「注文の多い料理店」(東京書籍5年)を使って、児童一人一人が多様な考えを持ち、学び合い、深め合う授業を目指して取り組んだ。

今回は児童に多様な考えを持たせるために、「注文の多い料理店」を読むだけでなく、「注文の多い料理店」以外の宮沢賢治の作品を読んだり、宮沢賢治の人物像を考えたりした授業を行った。

2 実践の概要

(1) 単元名 宮沢賢治の作品に親しもう ～本の帯を作ろう～

「注文の多い料理店」(東京書籍)

(2) 単元の目標

- 作品の主題を読み取ることができる。
- 宮沢賢治の作品を複数読み、作者のものの見方や考え方を読み取り、自分の考えを持つことができる。

(3) 指導計画 (全14時間)

	次	時	主な学習活動	
(手立て)	一	①	○ 学習計画を立て、本の帯を作り、宮沢賢治の作品を紹介するという単元の見通しを持つ。 (宮沢賢治の作品のコーナーを教室に設置し、読書の時間などを活用して「注文の多い料理店」以外の宮沢賢治の作品を読ませる。)	
	A ←	二	②	○ 『雨ニモマケズ』を読み、宮沢賢治の人物像について考える。
	B ←		③	○ 『注文の多い料理店』を読み取る。
	C ←		④⑤	・初発の感想を書く。
	D ←		⑥	・一人読みをする。(主題に関わるところ、登場人物に関わるところなど)
	E ←		⑦	・二人の紳士の人物設定をまとめ、二人の紳士に対しての自分の考えを持つ。
			⑧	・今まで読んだ内容をもとにして、二人の紳士が変容したかどうかを考える。
			⑨	・物語の終末から、作品の主題について考え、読み取る。
	F ←		⑩	・『注文の多い料理店』の本の帯を作る。
	三	⑩	○ 宮沢賢治の作品を読み、本の帯を使って紹介をする。	
		⑪⑫	・宮沢賢治の作品を読み、紹介する物語を決める。 (読書の時間などを活用して並行読書を行う。)	
		⑬	・本の帯を作成し、宮沢賢治の作品を紹介する練習をする。 ・主題を書く。 ・(あらすじ・作品の特徴などを書く。)	
			・交流会をする。 ・宮沢賢治の作品を読んで、自分が考えた主題について交流する。	
	四	⑭	○ 単元の振り返りを行い、学習のまとめを行う。	

(4) 手立てと授業の様子

自分の経験で国語が一番おもしろいと感じたのは、同じ教材を読んでも一人一人の読みが違うということを知った時だった。

そこで、学び合いを深めるためには一人一人が多様な考えを持つことが大切だと考えた。

今回は「注文の多い料理店」の主題を読み取ることに加え、作品そのものからだけでなく、宮沢賢治の複数の作品や詩『雨ニモマケズ』から作者のものの見方や考え方を読み取り、多様な考えを持つことができるようにした。

A 第2時 『雨ニモマケズ』を読み、宮沢賢治の人物像について考える。

「注文の多い料理店」を読む時、宮沢賢治について知っているのと知らないのでは、読みに大きな違いがあると考えた。

そこで、詩『雨ニモマケズ』から宮沢賢治について考えた。

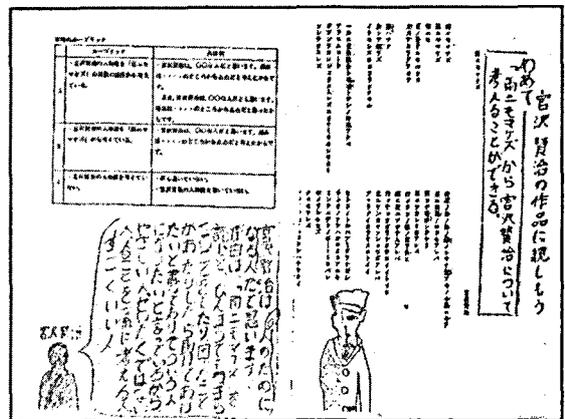


「東ニ病氣ノコドモアレバ
…」から、宮沢賢治さんは人のために役に立ちたい人だと思ったよ。

これまで児童は、作品の内容そのものを読み取っていた。

今回は「雨ニモマケズ」から宮沢賢治の人物像を考えたことで、児童は作者の人物像を考えて、作品を読むという読み方を新しく知ることができた。

児童のノート

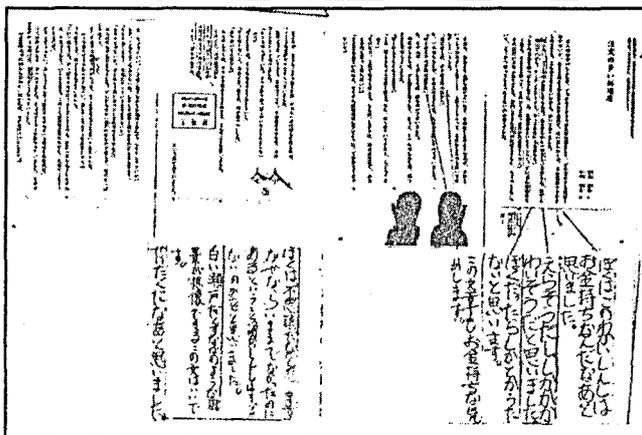


B 第4・5時 一人読みをする。

自分の考えを持って、授業にのぞむことができるように一人読みを行った。

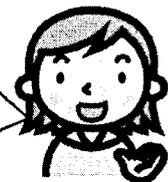
一人読みの観点（登場人物の行動と様子、気持ち、主題に関わる場所、不思議に思ったこと、好きな表現、自分と比べて）に基づいて、教材文に書きこみをした。

児童のノート（一人読み）



自分の考えを持って、授業を受けることができたよ。

一人読みをすることで、どんなところに気をつけて読んだらいいかわかったよ。



一人読みを行うことで、自分の考えを持って授業にのぞむことができるようになった児童が増えた。

また、一人読みの観点を提示したことで、どんなところに気をつけて作品を読めばいいかを児童が理解することができた。

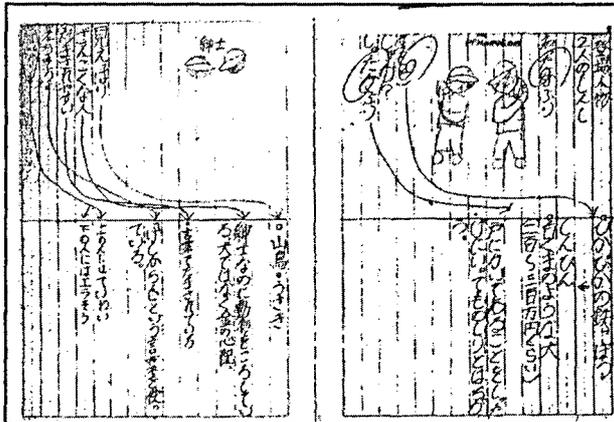
C 第6時 二人の紳士の人物像をまとめ、二人の紳士に対しての自分の考えを持つ。

一人読みをもとにして、二人の紳士の人物像について全員でまとめた。

二人の紳士の人物像をまとめておくことで、第7時の二人の紳士の変容について考える授業、第8時の作品の主題を考える授業につながると考えた。

また、人物像についてまとめるだけでなく、二人に紳士に対して自分の考えを持たせておくことで、「注文の多い料理店」をより深く読めると考えた。

児童のノート(二人の紳士の人物像)



自分の飼っている犬が死んでもお金のことを言うなんて、命を大切に考えない人だと思う。

知らないことを知ったかぶりをするなんて、自分はそんなことはしないよ。



二人の紳士の行動や様子などから、人物像を想像することができた。
また、二人の紳士に対して、自分で評価をしながら読む児童も現れた。
二人の紳士についてまとめたことが次の変容を考える授業や作品の主題を考える授業につながった。

D 第7時 今まで読んだ内容をもとにして、二人の紳士が変容したかどうかを考える。

二人の紳士が変容したかどうかを考えさせるために、これまで学習した「大造じいさんとがん」「ちかい」と比べながら、二人の紳士が変容したかどうかを考えた。

児童のノート(これまでの作品と比較して)

大造じいさん	ハニター	二人の紳士
大造じいさんは、大造じいさんといふ。大造じいさんは、大造じいさんといふ。大造じいさんは、大造じいさんといふ。	ハニターは、ハニターといふ。ハニターは、ハニターといふ。ハニターは、ハニターといふ。	二人の紳士は、二人の紳士といふ。二人の紳士は、二人の紳士といふ。二人の紳士は、二人の紳士といふ。
大造じいさんは、大造じいさんといふ。大造じいさんは、大造じいさんといふ。大造じいさんは、大造じいさんといふ。	ハニターは、ハニターといふ。ハニターは、ハニターといふ。ハニターは、ハニターといふ。	二人の紳士は、二人の紳士といふ。二人の紳士は、二人の紳士といふ。二人の紳士は、二人の紳士といふ。



これまで学習した「大造じいさんとがん」や「ちかい」のように変容をしていないな。

二人の紳士が変容していないことと「注文の多い料理店」の主題とは関係がありそうだな。

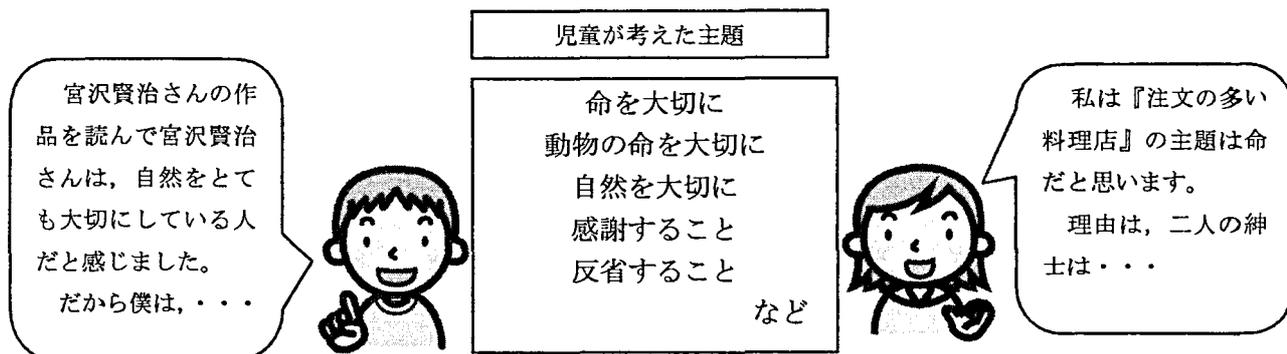


これまで学習した作品と比較することで、「注文の多い料理店」の二人の紳士の変容がこれまでの作品と違うことが明確になり、そこから二人の紳士が変容をしていないことが、作品の主題に関係があると考えることができた。

児童は作品を読み比べるという、読み方を学習することができた。

E 第8時 物語の終末から、作品の主題について考える。

「注文の多い料理店」の主題について考えた。物語の終末で二人の紳士が変容していないことから作品の主題にせまっていった。

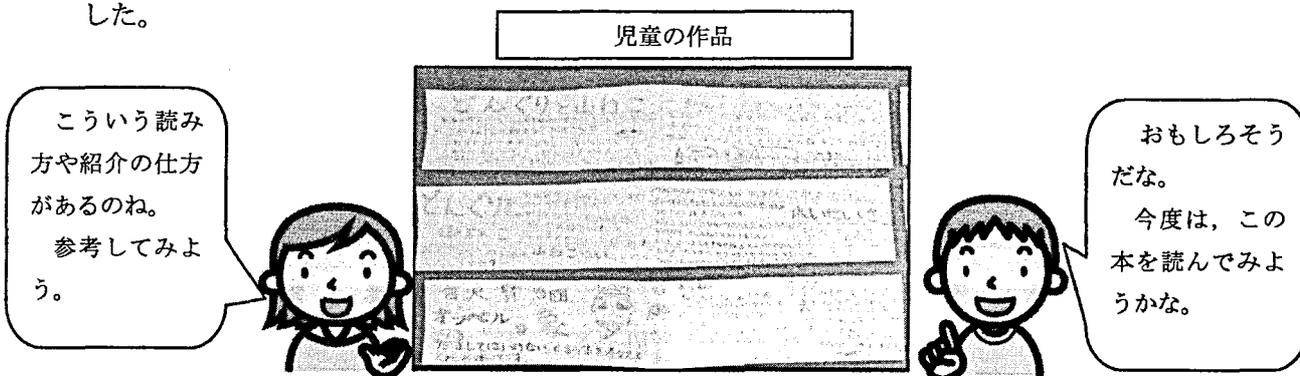


児童は自分の意見をしっかりと持って、授業にのぞむことができた。教材文からはもちろん、第2時で学習した宮沢賢治像や第7時で学習した二人の紳士の変容、「注文の多い料理店」以外の宮沢賢治の作品との比較などから、児童は作品の主題を考えていた。結果、主題について児童に多様な考えを持たせることができた。

F 第三次 宮沢賢治の作品を読み、本の帯を使って紹介をする。

児童が意欲的に学習するために、宮沢賢治の作品を紹介するために本の帯を作るという活動目標を設定した。

そして、単元のゴールに自分が作った本の帯を使って交流会を行うことで、自分が読んでいない宮沢賢治の作品に親しんだり、自分と友達との読みの違いを比べたりすることができるようにした。



宮沢賢治の作品を紹介するために、本の帯を作るという活動目標を設定したことで、児童は宮沢賢治の作品を意欲的に読むことができた。交流会を行い、友達の作った本の帯を見ることで、自分の読んでいない宮沢賢治の作品を読もうという意欲が高まった。その結果、日常での読書への意欲につながった。

3 成果(○)と課題(●)

- これまでの読み方（作品そのものを読む）とは違った読み方（作者の人物像を知る。他の作品と読み比べる）を学習したことで、児童の読み方が広がり、「注文の多い料理店」の主題に対して多様な考えを持たせることができた。多様な考えを交流したことで、児童の一人一人の読みが深まり、友達の考えに関心を持ち、友達から学ぶ児童が増えた。
- 児童の多様な考えをいかに引き出し、どのようにまとめていくと児童の読みはさらに深まっていくのかを研修していく必要がある。